

住民主体のまちづくり

No.21 2015. 8

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 伸びのびトーク in 米子

去る7月12日（日）午後、永江公民館で、「伸びのびトーク in 米子」が開催され、高野会長、辻幹事、辻谷幹事、福住事務局の4名が参加しました。

「伸びのびトーク」とは、知事をはじめとする鳥取県の幹部職員（13名）が、県民（住民・NPO・経済団体・地域活性化等に取り組む団体等）や行政関係者と、その地域が直面する課題などについて直接意見交換を行う会です。

今回の意見交換テーマは、「住民主体のまちづくり」です。



県では、参加者の意見を施策に生かし、「みんなでやらいや未来づくり」を着実に実現していきたいと考えています。

この未来づくりとは、防犯・防災対策、交通対策をはじめ、子どもたちや高齢者、障がい者等を含め、行政のみならず地域住民で主体的に支え合う「支え愛まちづくり」を進め、全国に誇り得る愛情と安心にあふれたモデル的な地域社会の形成をめざすものです。

また、トークの参加者には、意見交換を活かして自らの取組みを積極的に進めていく弾みにしていくことです。

知事からは、若い世代の多い車尾の特性を活かした元気なまちづくりに期待されました。また、自治会加入の促進が重い課題となりました。

■ 車尾消防団、消防ポンプ操法県大会に出場

7月5日（日）県消防学校において行われた第61回鳥取県ポンプ操法大会に出場。久々の出場にもかかわらず、小型ポンプ操法の部で、見事3位入賞と優秀番員賞を森山班長と谷本団員が受賞しました。消防団のポンプ操法といっても、皆さん

ピンと来ないと思いますが、火災を想定して正確に安全に操作して、火元と仮定されている的を早く水で倒すという競技です。一番の目的は、この操法という競技をすることによってポンプを使って消火するという一連の動作が身に付くことで



す。有り難いことに火事が頻繁に無いのでこういう訓練をしておかないと、突然の火災に右往左往することにもなりかねません。現場に到着しても何も出来ないようでは、消防団の存在意義が問われると思います。団員は、選手はもとよりサポートメンバーも仕事が終わってから集まり、夜遅くまで訓練をしてスキルアップに努めています。これも、大好きな車尾を自らが守っていくという責任感、これは昔から車尾消防団の伝統と言えますが、それが受け継がれているからだと思います。

ただ、残念なことに入団する住民が少なく、現在定員割れしています。車尾も人口が増えていますので、ぜひ皆さんの入団をお待ちしています。入団に関して、詳しくは米子市防災安全課まで問い合わせてください。また、来年の大会に向けて練習を再開しますので、もし見かけられたら励ましの言葉でもかけていただければと思います。

車尾消防団！頑張っておりますので地域の皆さんの応援よろしくをお願いします。

